

## 研究計画書（ホームページ掲載用）

### (1) 研究課題名：

ドーパミントランスポータシンチにおける解析ソフトの有用性に関する研究

### (2) 研究組織

研究責任者：名古屋大学大学院医学系研究科医療技術学専攻医用量子科学講座  
加藤克彦・教授

研究分担者：名古屋大学医学部保健学科放射線技術科学専攻・遠藤嵩士

### (3) 研究目的：

現在パーキンソン症候群およびレビー小体型認知症の診断を確定するため、I-123-ioflupane ドーパミントランスポーター (DaT)シンチグラフィの検査が行われている。現在の診療においては、線条体への集積や被殻と尾状核の集積の差、左右の線条体の集積の差について視覚評価で診断を行うのが一般的である。その補助として解析ソフトによって求められる取り込み比 (DVR: Distribution Volume Ratio) という定量的指標があり、またその被殻と尾状核の前後比や左右差を求めることが出来る。それらの値と視覚評価を比較することで、DaT シンチグラフィにおける解析ソフトの有用性について検討する。

### (4) 研究方法：

名古屋大学医学部附属病院アイソトープ PET 検査室で行われた DaT シンチグラフィの画像データを用いる。各症例において SPECT-CT 装置(SIEMENS Symbia T)で撮像し、解析ソフト Scenium (Siemens)で処理した画像を用いて線条体の DVR (Distribution Volume Ratio) を線条体全体、尾状核、被殻において定量的に測定しその左右の差、被殻と尾状核の前後比を求める。視覚評価においては核医学専門医 3 名と核医学専門技師 1 名により線条体の集積の度合いを連続確信度法で評価する。得られた読影スコアと、Scenium から得られたデータを比較しその相関を見る。また問診やその他の検査から総合して診断された臨床診断と比較する。

### (5) 個人情報の保護：

画像データは連結不可能匿名化されたものであり、個人情報の特定はできない。

### (6) 研究期間：

倫理委員会承認日から平成 29 年 3 月 31 日まで

### (7) 研究資金：

なし